

デジタルハリウッド大学の3度目の完全オンライン新入生研修 FF2022実施報告

DHU's Third Online Freshman Seminar "First Field 2022"

田宮 よしみ TAMIYA Yoshimi

デジタルハリウッド大学 学生支援グループ
Digital Hollywood University, Student Support Group

デジタルハリウッド大学は、2022年度も新入生研修を完全オンラインで実施した。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、ハイブリッド研修から完全オンライン研修に切り替えて実施した。オンライン研修3年目になる2022年度は、過去2年の運営経験から踏襲した内容もあれば、改めた内容もある。本稿では、2022年度研修の一連の流れを紹介しながら、どのように企画運営し、改善していったかを報告する。

1. はじめに

デジタルハリウッド大学(以下、本学)では、毎年4月に新入生向けに旅行型研修を実施してきた。2005年から2017年までは海外研修を実施、2018年以降は「デジタルコミュニケーションを活用した地域振興」をテーマに国内研修に切り替え、2018年度は熊本県阿蘇地域、2019年度は鳥取県西部地域で旅行型研修を実施した。しかし、2020年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の旅行型研修の実施が難しくなり、完全オンラインで研修を実施することになった。

2020年度は北海道北広島市、2021年度は群馬県伊香保温泉周辺、2022年度は鹿児島市での旅行型研修を実施するべく準備を進めたが、冬季の新型コロナウイルスの感染拡大により、毎年1月下旬に旅行型研修中止の判断を下し、完全オンライン研修に切り替える状況が続いた。オンライン研修ではあったが、2020年度は電子書籍の制作^[1]、2021年度は「DHU超ウィキ」の作成^[2]、2022年度は「超オシマップ」の作成^[3]、と毎年取り組むテーマを変えながら実施してきた。

本稿では、3度目となった完全オンラインでの新入生研修First Field 2022について紹介する。

2. 新入生研修

本学では、2020年度より新入生研修(以下、研修)は、科目名「First Field」として1年次必修科目になった。科目名は、初めての分野・領域・フィールドワークの意味から付けられた。

2022年度研修は、2022年4月11日(月)～15日(金)の5日間、318名の学生が国内外から参加し、「DHU超オシマップを作成する」をテーマにオンラインで実施した。取り組むテーマは毎年異なるが、学生たちがオンラインコラボレーションを体験し、ページ作成を通して、(a)同級生について知る、(b)大学について知る、(c)教職員について知る、というオンライン研修の目的は変えずに企画運営した。

2.1 企画

2019年度研修以降、本学の新入生研修担当である事務職員(以下、事務局)と本研修の総合プロデューサーである教員、ファシリテーションのプロである株式会社フューチャーセッションズの2名の合計4名のコアメンバーで研修企画の大枠を固め、その後に研修内容に応じた教員や外部講師を招聘した。また研修内容とスケジュールが固まった後、インタビューで協力を依頼する教職員や卒業生に声をかけていった。教職協働および産学が連携し、運営メンバーが対

等な立場で意見を出し合い、企画立案から運営まで行っている点は本研修の特徴でもある。

コロナ禍でのオンライン研修については、集合型研修が実施できないからこそ、同じテーマの焼き直しではなく、その年度に入学した学生のためだけに毎年新しいテーマを企画し運営してきた。

2022年度は、Geolonia Maps^[4]のサービスを利用し、学生たちが個人やチームのおすすめスポットを登録、教職員や卒業生43名に43チームがそれぞれインタビューし紹介されたおすすめスポットを登録することで、学生同士だけでなく、大学周辺や卒業までに訪れて欲しい場所、自分にとっての聖地などについて話を聞きながら、現在の職業のルーツや人柄に触れ、教職員や卒業生と知り合う機会を設けた。

また、マップ作成にあたり必要な知識や技術について、関連するトピックの講義を行った後に課題に取り組む形をとった。表1は実施した講座名の一覧である。

表1：実施した講座名

講座名
企画とは？(企画力)
ライティング&インタビュー術
すぐに使えるデザインの基礎知識
著作権
Geolonia Mapsの使い方
コンセプト立案にあたっての視点・切り口・発想の転換
コンセプトシートの書き方

2.2 事前準備

本研修では、Zoom、Slack、Google Classroom、Dropboxを利用した。使用するSlackのチャンネル、Google Classroomは研修開始前に作成した。Zoomは7アカウントを使用し、毎日のスケジュールを設定、Slackは全体お知らせや提出用、グループやチーム別に61チャンネル作成した。Slackチャンネルへの投稿は参加メンバー全員が閲覧可能なため、個人の趣味嗜好について作成する欲望年表と偏愛マップの提出用にGoogle Classroomを利用した。

新入生向けの受講案内は、研修開始前の週に本学グループウェア「デジキャン」を通し、Slackの全体お知らせチャンネルおよびGoogle Classroomへの参加登録、本学学生用メールアドレスに紐づくDropboxのアカウント作成を完了させておくよう告知した。Dropboxはマップにアップロードする画像置き場として利用した。

また、本研修ではGeolonia Mapsのサービスを利用したため、株式会社Geoloniaの担当者と打ち合わせを重ね、マップサイトのカスタマイズ化を進めた。

2.3 運営

本研修は、本学教員7名、外部講師3名、ファシリテーター2名、および事務局3名、カメラマン1名の合計16名で運営した。また、本学教職員および卒業生43名がインタビューされる側として参加した。毎日の全体セミナーの進行はファシリテーターが行い、取り組むトピックに合わせて教職員が30分程度のミニ講座を実施した。教員、外部講師およびファシリテーターが、セミナーおよび学生指導を担い、毎日のZoomの立ち上げ、入室管理、Slackでのお知らせ、資料の投稿、質問への回答、出欠管理等の裏方業務を事務局が担った。

セミナーはZoomを使用、提出物は1日目のみGoogle ClassroomとSlack、2日目以降はSlackを利用した。研修開始前に学生は、Slackの全体お知らせ、実況、課題提出、質問の4つのチャンネルに参加し、2日目以降は所属するグループやチームのチャンネルに参加するようにした。

Zoomの運営に関しては、氏名の表示ルールを徹底し、Zoom表示名がルールに反する場合はセミナー開始まで入室許可を出さず、表示名の変更を呼び掛けた。セミナー開始後に入室許可を出したが、ZoomチャットおよびSlackのダイレクトメッセージを利用して表示名を変更させた。

2日目以降はチームやグループに分かれて活動するため、1日目午後にGoogle Formsで希望役割アンケートを取り、提出された偏愛マップとアンケートの回答に基づくチーム・グループ分けを行った。偏愛するものが類似または共通する学生たちを同じチームにまとめた。また、グループを担当する教員の専門分野や趣味と関連する分野で学生のチームと教員を可能な限りマッチングさせてチーム割と教員配置を行った。

2.4 5日間のスケジュール

テーマに応じたスポットをオンラインマップに登録するため、5日間を通して一つのを完成させるのではなく、毎日異なるテーマに応じた紹介文を作成しマップ登録していった。表2は5日間のスケジュール概要である。

1日目午前、欲望年表と偏愛マップの作成を通して、自分自身について知る時間とした。午後は30分のミニ講義を3つ実施し、2日目からのマップ作成に必要な知識と技術について学んだ。また、Google Formを利用し、2日目から希望する役割についてのアンケートを取ると同時に自分の偏愛するもの5つを投稿させた。図1は学生たちが偏愛するキーワードをテキストマイニングソフトにかけた分析結果である。1日目の研修終了後、上記2つのデータから学生のグループ分けを行った。2日目午前、著作権とGeolonia Mapsの使い方について学び、練習として、「おすすめのラーメン店」、その後は「自分の聖地3つ」をマップに登録した。2日目午後からは、前日に実施した役割希望アンケートを元に行ったチーム・グループ分けに基づき活動した。表3はグループ・チーム構成一覧である。ライターグループはZoomアカウント2つで43のブレイクアウトルームを作成し、43名の教職員・卒業生にチーム別におすすめスポットについてインタビューを行った。インタビュー終了後からマップ登録までの時間を2時間設け、学生たちはSlackのチーム別チャンネルや通話機能を利用してインタビューの振り返り、紹介するオシスポットの選定、登録する内容の検討、マップ登録までを行った。マップ登

録した内容は、チームの代表者がSlackの提出チャンネルにスポット名を投稿し全体で共有した。音楽グループは5日目のVTuberによるオンライン番組内で使用する楽曲の作成を開始した。デザイングループは3つのチームに分かれ、マップのトップページデザイン、5日目の番組内で使用するイラスト、タイトルデザインの制作を開始した。3日目は朝からチーム別に活動した。ライターグループは午前の講義後、5つのグループに分かれ、グループごとに設定されたテーマについてチーム別にコンセプトシートの作成、発表とフィードバック、マップ登録を行った。午後は「卒業旅行」をテーマにコンセプトシートの作成と情報収集を行った。音楽グループおよびデザイングループは5日目に向けた制作活動を行った。4日目も朝からグループ別に活動した。ライターグループは卒業旅行のプランニングとマップ登録、デザイングループはデザイン制作を行い、音楽グループは4日目に録音まで含め楽曲を完成させた。5日目は全員が1つのZoomに集合し、全体ワークを行った。午前は35のブレイクアウトルームに分かれ、30分×4ラウンドで学生をシャッフルしながら自分やチームが投稿したマップ、4日間の活動などについて話し、お互いについて知る機会とした。午後はYouTuber4名と教員1名が登場し、オンライン番組「デジ街ツク天国」を配信。4日間で登録されたマップからランキング形式でおすすめコンテンツトップ20を発表した。この番組の中で、デザインチームと音楽チームが制作した作品が使用された。「DHU超オシマップ」のトップデザインは5日目午前までは暫定で本学の外観写真が使用されていたが、午後のセミナー開始直前に、デザインチームが制作したイラストと文字に切り替えた。図2は学生たちにより制作されたDHU超オシマップのトップページの画像である。その後は、担当教員による講評、4日間の記録ムービーの視聴、Zoom上での記念撮影を行った。

表2：5日間の内容

日程	内容
4/11 (月)	午前：イントロダクション・研修テーマ発表 欲望年表・偏愛マップの作成 午後：企画力・ライティング&インタビュー・デザインの基礎知識講座
4/12 (火)	午前：著作権・Geolonia Maps講座 Geolonia投稿練習後、「自分の聖地」の紹介文作成・マップ登録、SlackへのマップURL提出 午後：グループに分かれ活動 ライターグループ：43チームに分かれ、教職員・卒業生インタビュー「おすすめスポット・聖地」後、マップ登録 デザイングループ：マップデザイン、5日目発表イベント用デザイン制作 音楽グループ：5日目発表イベント用音楽制作
4/13 (水)	グループに分かれ活動 ライターグループ： 午前：講義後、グループ別Zoomに移動しグループ課題に取り組む 午後：卒業旅行をテーマにマップ制作準備 デザイングループ：終日、マップデザイン、5日目発表イベント用デザイン制作 音楽グループ：終日、5日目発表イベント用音楽制作
4/14 (木)	グループに分かれ活動 ライターグループ： 講義後、グループ別Zoomに移動しチーム別に卒業旅行課題に取り組む

4/14 (木)	デザイングループ：終日、マップデザイン、5日目発表イベント用デザイン制作 音楽グループ：終日、5日目発表イベント用音楽制作、完成
4/15 (金)	全体セミナー 午前：イントロダクション後ネットワーキング。35のブレイクアウトルームに分かれ、チームメンバー以外の学生とマップについて話をする。 午後：研修のまとめと発表 VTuber4名が登場し、ランキング形式でスポットを紹介。担当教員による講評と、4日間の研修振り返りムービー視聴後、Zoomで記念撮影し終了



図1：偏愛マップ分析 by User Local



図2：超オシマップ

表3：グループ・チーム構成

グループ	チーム
ライターグループ1	チーム1-1 ~ 1-9
ライターグループ2	チーム2-1 ~ 2-9
ライターグループ3	チーム3-1 ~ 3-9
ライターグループ4	チーム4-1 ~ 4-8
ライターグループ5	チーム5-1 ~ 5-8
デザイングループ	A ~ C
音楽グループ	オケ(楽器)、メロ(ボーカル・歌詞)、PRチーム

2.5 記録

5日間、ビデオグラファー/フォトグラファーであり、本学の卒業生でもあるフリーのカメラマンが参加し、研修中の記録映像を制作した。制作された映像はYouTubeで公開した^[5]。

3. オンライン研修3年目に変更した点、活用した点

3.1 SNSツール

2020年度および2021年度はFacebookグループを学生との連絡手段として活用したが、Facebookのアカウントを持っていない新生が入数一定数あり、研修開始前にアカウントを作成はしたが短時間に多数の友達申請を行った結果、アカウントを停止される事例が多く発生し、2021年度は効果的に活用できなかったため2022年度研修では利用しなかった。学生への告知や連絡は「デジキャン」とSlackのお知らせチャンネルのみで統一した。また、チーム割は、Google Classroomに提出された偏愛マップの全データを事務局1名が確認し、Google Formのアンケートで回収した役割希望内容と合わせて学生間のマッチング、教員とのマッチングも行い進めてきたが、2022年度は作業の効率化を図るため偏愛マップの確認部分はGoogle Classroomで提出されたデータを1枚ずつ確認する代わりに偏愛マップで上がったキーワード5つをアンケート形式で提出させ、Excelにエクスポートしたデータでマッチングを進めた。しかし、最後はGoogle Classroomに上がった偏愛マップを確認しながらチーム割を完成させる必要があったため、短縮できた時間は3時間程度であり、チーム割作業の効率化は今後も課題として残った。

3.2 著作権チャンネルの活用

著作権はこれまでもミニ講義の実施のみであったが、2022年度は著作権講座を担当した鷹野凌氏が、ライターチームで自身が受け持つグループのSlackチャンネルに有益な著作権に関する情報を投稿していたため、新たにSlackに「著作権チャンネル」を作成し、それまでに投稿された著作権情報や引用する際の留意点などについて、著作権チャンネルにまとめ直し投稿した。

3.3 実況チャンネルの活用

本研修では、最終日を除く4日間、毎日新しい講義と課題が出された。課題を出すにあたっては講師やファシリテーターがパワーポイントで作成した資料を用いて丁寧に説明しながら進めたが、今何をやらなければならないのか、課題は何か、提出方法や締め切りはいつか、などの情報を見落とす学生もいた。そのため、Slackの実況チャンネルで、セミナー中も今何が話されているのか、要点は何かを投稿していった。毎年研修終了後の学生のコメントで、実況チャンネルに助けられた、との声が多かった。そのため、2022年度は実況チャンネルを過去2年よりも積極的に活用した。実況担当教員が不在になる時間は、他の運営メンバーが代わりに投稿し、進行から取り残される学生が出ないようにした。実況チャンネルは今後の研修でも積極的に活用していきたい。

4. アンケート

第1クォーター終了後に期末アンケートをオンラインで実施し、112名から回答があった。表4は期末アンケートでの学生のコメントの抜粋である。

このアンケートの結果から、オンライン研修ではあったが学生の満足度は概ね高かったことがわかった。ただ、5日間で多くの課題をこなさなければならなかったため、時間が足りずハードだったと感じた学生が多かった。旅行型研修の代わりにオンライン研修を実施したため、企画の段階で1日4コマの授業時間で終わらせるのではなく、セミナー終了後もチームで1-2時間は活動する前提でスケジュールを組んだが、負荷をどの程度かけるのかは、再度検討したい。

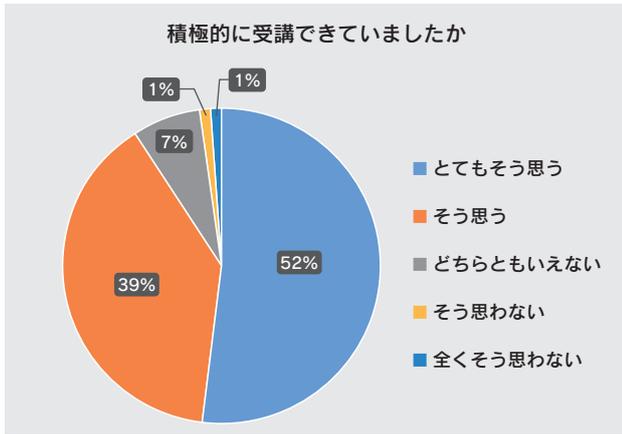


図3：2022年度1Q期末アンケート

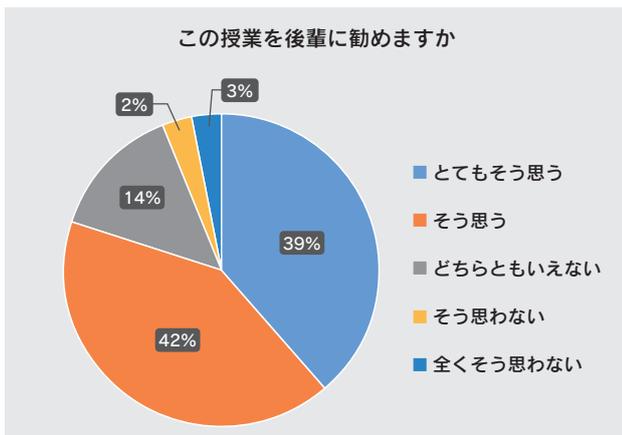


図4：2022年度1Q期末アンケート

表4：2022年度1Q期末アンケート フリーコメント

デジタルハリウッド大学に入学してどのような勉強スタイルなのかを知ることができた授業だと思います。最初は授業ペースなどやオンラインで友達ができるか不安でしたが、授業も生徒に合わせて進めてくれるのに加えて、ブレイクアウトルームなどを使用して初対面どうして意見を出し合う環境を作っていただいたりして楽しく授業が受けられました。超オシマップという発想もとても面白く参考にしたいと思いました。
新入生研修はすごい昔のここのように思えます。週5日1限から4限までというハードスケジュールでしたが、今となっては良い思い出で楽しかったなと感じています。最終日にライティングチーム、デザインチーム、音楽チームが作り上げた超オシマップをみんなで見たり、5日間を振り返るムービーを見たりと大学では珍しい学年一丸となった雰囲気を味わえた気がします。自分にとってデジハリ生活の良いスタートができたと思います。
入学したての時に偏愛しているものが近い人とグループワークをして一つの物事を成し遂げたことで、友達もでき、デジタルハリウッドの洗礼も受け、とても刺激的な一週間でした。毎年お題を楽しみにしているので、来年もひっそり応援しています！貴重な体験をありがとうございました！
新入生研修で学んだことは多くあります。ですが、それを全て書いてみると、ここに書き切れないので印象に残ったことを1つ書きます。新入生研修で面白かったことは、色々な先生が出てきて、ミニ授業が多く受けられたことです。全ては私たちのグループワークを下支えするためのものではあるのですが、多くのミニ授業がこれもやってみたい、あれもチャレンジしたいのように、色んな

世界にアンテナを伸ばすきっかけにもなりました。また、事務局のサポートがすごいなと思いました。おそらく、入学したてのイベントで、ここまで手厚いサポートを行う大学はデジハリだけだと思います。

きつい一週間だったが、この時のチームメンバーとは今も仲が良く、そこから友だちの輪も広がられた。大学が始まったばかりの大切な時期に大変な課題をチームに課せられたから、その分仲も深まったのだと思う。また、チームワークの進め方のコツも掴めた。有意義な時間だった。

オンラインという形になってしまいましたが、教授方は生徒の期待に添えるよういろいろな準備をしてくださったのだらうなと思いました。超オシマップや、先輩に評価してもらった卒業旅行のプランなんかは逆にオンラインだからこそ実現した企画だったのではないのでしょうか？ 実際行けてなくても他の面で+になることを吸収できたので貴重な体験となったことは間違いありません。ありがとうございました。

5. おわりに

コロナ禍下で実施する研修も3回目であり、運営メンバーもほぼ変わらず実施したため、過去2回の経験から予め準備しておく内容、講義の順番や5日間のスケジュールの組み方はスムーズに行うことができた。ただ、事務局として運営ノウハウを積んだから対応できた点と、個々の教員の専門性と指導力があつたからこそ対応できた点があつた。主要メンバーが欠けた時にスムーズな進行ができなくなる可能性があるため、フォローアップ体制の整備について今後検討していきたい。

また、オンライン研修における学生の参加状況の見える化は依然課題として残っているため、どのように解決していくか引き続き検討していきたい。

参考文献

- [1] PR TIMES: "開催レポート デジタルハリウッド大学[DHU] 新入生研修を完全オンラインで実施～「コロナ後の未来を考える」をテーマに新入生300人が5日間で電子書籍を製作～" <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001813.000000496.html> (参照2022年8月30日)
- [2] PR TIMES: "開催レポート 5日間でScrapboxを利用し2,642ページからなる「DHU超ウィキ」を作成する新入生研修をオンライン開催 デジタルハリウッド大学[DHU]" <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001938.000000496.html> (参照2022年8月30日)
- [3] PR TIMES: "開催レポート デジタルハリウッド大学[DHU] 新入生研修First Field 2022をオンラインで実施 新入生318名が「DHU超オシマップ」を作成" <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000002100.000000496.html> (参照2022年8月30日)
- [4] 株式会社Geolonia: "Geolonia Maps" <https://geolonia.com/maps/> (参照2022年8月20日)
- [5] "デジタルハリウッド大学新入生研修2022ダイジェストムービー" <https://www.youtube.com/watch?v=EoxiCCBXG6c> (参照2022年8月20日)